

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難		
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計				
	情報通信エレクトロニクス工学科	夜・通信	0	0	23	23	7			
	制御情報システム工学科	夜・通信			13	13	7			
	人間情報システム工学科	夜・通信			15	15	7			
	機械知能システム工学科	夜・通信			10	10	7			
	建築社会デザイン工学科	夜・通信			12	12	7			
	生物化学システム工学科	夜・通信			17	17	7			
	専攻科電子情報システム工学専攻	夜・通信			0		22	22	7	
	専攻科生産システム工学専攻	夜・通信					21	21	7	
(備考)										

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校の公式HP上で、WEBシラバスにて公表 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=47
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)
なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20220401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学 理事・副学長	2020年4月1日～ 2024年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～ 2024年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画(シラバス)の作成過程 教務委員会及び専攻科委員会(専攻部会)を通じて、前年度の12月の時期に、各科目担当教員に作成を依頼している。また、非常勤教員については、担当のホストプロフェッサー(サポート教員)を介して、次年度のシラバス作成を依頼している。 シラバスでは、高専機構統一のWebシラバスを利用しており、授業方法(講義、演習、実験、実習の別)、授業概要、年間スケジュールを記載している。成績評価については、科目ごとに到達目標を示し、成績評価方法・基準について明記している。 各担当教員のシラバスが作成された段階で、シラバスの内容等の相互チェック、教務委員会及び専攻科委員会(専攻部会)による点検を実施している。 ・ 授業計画(シラバス)の公表時期及び公表方法 教務委員会及び専攻科委員会(専攻部会)にて、最終確認後、前年度の3月中に本校のホームページ上で公表している。 	
授業計画書の公表方法	本校の公式HP上で、Webシラバスにて公表 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=47
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

<本科>

各科目については、シラバスに記載した評価基準及び方法を用いて、担当教員が成績評価を行っている。各科目の成績評価方法として採用されている試験、レポート等の評価結果は原則として学生に開示している。また、卒業論文については、学科単位で卒研発表、論文審査等を行い、評価シートを用いて、取得項目毎に複数教員で審査を行っている。最終的に総合評価を行い、単位認定などを学科会議で最終判定を行っている。

最終的な単位及び成績認定については、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」に基づき、教務委員会、専攻科委員会で確認したのち、企画運営会議（H30年度までは運営会議）で認定している。

なお、各科目の成績については、前期中間、前期末、後期中間、学年末に自己点検シート、成績通知書によって学生本人、保護者にも成績評価結果について確認を行ってもらっている。また、前期中間、前期末、後期中間、学年末の各時点で、学生の履修状況及び学修成果状況について教務委員会及び所属学科で確認し、学修指導に反映させている。

<専攻科>

各科目については、シラバスに記載した評価基準及び方法を用いて、担当教員が成績評価を行っている。各科目の成績評価方法として採用されている試験、レポート等の評価結果は原則として学生に開示している。

また、専攻科の特別研究については、学生に毎月研究実施報告書を提出してもらい、年度末には各専攻の系単位で研究発表を行い、論文と特別研究評価報告書に基づき主査、副査が評価し、専攻科委員会（専攻部会）で確認を行っている。

最終的な単位及び成績認定については、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」又は「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」に基づき、専攻科委員会（専攻部会）で確認した後、企画運営会議（H30年度までは運営会議）で認定している。

なお、各科目の成績については、前期末、学年末に、成績表を学生に配付し、成績評価結果について確認を行ってもらっている。また、前期末、学年末の各時点で、学生の履修状況及び学修成果状況について、専攻科委員会（専攻部会）で確認し、学修指導に反映させている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

<本科>

成績評価の順位については、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」の中で規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。

また、成績の分布状況の把握については、前期中間、前期末、後期中間、学年末の各期において成績順位を算定し、担任、教務委員会、各学科で確認している。また、学生及び保護者に成績通知書を送付し、中間時点での成績及び最終成績について確認できるようにしている。

なお、2022年度のキャンパスごとの指標については、以下のとおり。

【熊本キャンパス】

成績評価の順位については、次の算定式によるGPAポイントで決定する。

算定式：{ (S評価科目の単位数×4点) + (A評価科目の単位数×3点) + (B評価科目の単位数×2点) + (C評価科目の単位数×1点) } ÷ (履修科目の合計単位数)

【八代キャンパス】

成績評価の順位については、次の算定式によるGPAポイントで決定する。

算定式：{ (S評価科目の単位数×4点) + (A評価科目の単位数×3点) + (B評価科目の単位数×2点) + (C評価科目の単位数×1点) } ÷ (履修科目の合計単位数)

<専攻科>

成績評価の順位については、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」及び「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」の中で規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに専攻科学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。

また、成績の分布状況の把握については、前期末、学年末の各期において成績順位を算定し、担任、専攻科委員会（専攻部会）及び各学科で確認している。また、学生には成績表を配付し、中間時点での成績及び最終成績について確認できるようにしている。

なお、両キャンパスの指標については、以下のとおり。

【熊本キャンパス・八代キャンパス共通】

成績評価の順位については、次の算定式によるGPAポイントで決定する。

算定式：{ (S評価科目の単位数×4点) + (A評価科目の単位数×3点) + (B評価科目の単位数×2点) + (C評価科目の単位数×1点) } ÷ (履修科目の合計単位数)

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>本科の学生便覧及び専攻科の学生便覧に掲載し、本校のHP上で公表。 https://kumamoto-nct.ac.jp/shien/handbook.html なお、該当ページは以下のとおり。</p> <p>【本科】 熊本キャンパス：P. 66（熊本キャンパス学生便覧 P. 65） 八代キャンパス：P. 61（八代キャンパス学生便覧 P. 46）</p> <p>【専攻科】 熊本キャンパス：P. 59（熊本キャンパス専攻科学生便覧 P. 54） 八代キャンパス：P. 34（八代キャンパス専攻科学生便覧 P. 27）</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）</p> <p><本科> 卒業の認定については、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」に規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。 また、上記規則に基づく認定の実施に関しては、各キャンパスの規定に基づき厳格に実施している。</p> <p><専攻科> 修了の認定については、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」及び「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」の中で規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに専攻科学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。 また、上記規則に基づく認定の実施に関しては、各キャンパスの規定に基づき厳格に実施している。</p>	

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>本科の学生便覧及び専攻科の学生便覧に掲載し、本校のHP上で公表。 https://kumamoto-nct.ac.jp/shien/handbook.html</p> <p>ディプロマ・ポリシーは、以下に掲載。</p> <p><情報通信エレクトロニクス工学科> https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-elec/threepolicies.html</p> <p><制御情報システム工学科> https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-control/threepolicies.html</p> <p><人間情報システム工学科> https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-human/threepolicies.html</p> <p><機械知能システム工学科> http://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-machine/threepolicies.html</p> <p><建築社会デザイン工学科> http://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-design/threepolicies.html</p> <p><生物化学システム工学科> http://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-biological/threepolicies.html</p> <p><専攻科電子情報システム工学専攻> https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_e/threepolicies.html</p> <p><専攻科生産システム工学専攻> https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_p/threepolicies.html</p>
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R2jigyohoukokoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR2.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和4年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r4-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/openinfo/jikohyoka.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名：情報通信エレクトロニクス工学科
教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-elec/threepolicies.html ） （概要） 情報通信エレクトロニクス工学科は、情報通信とエレクトロニクスの専門技術とともに両者を融合した技術を身に付け、情報通信とエレクトロニクスに対する高度化、多様化したニーズに応えられる技術者の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-elec/threepolicies.html ） （概要） 情報通信エレクトロニクス工学科では、育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、以下のような能力を身につけ、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 (D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力 (D2) ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術 (D3) 情報通信工学及びエレクトロニクス分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力 (D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性 (D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観 (D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-elec/threepolicies.html ） （概要） 1-1. 学科共通のカリキュラム・ポリシー 基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は入学時から少しずつ学習内容が充実する複形に配置している。 主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。 [共通科目] ・専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。 ・知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために人文・社会系科目及び総合科目を開講している。 ・グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。 ・問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。 [キャリア教育]

- ・社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開設している。
- ・入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

1-2. 情報エレクトロニクス工学科のカリキュラム・ポリシー

(1) 情報通信エレクトロニクス工学科のカリキュラムの特徴

- ・ICT(情報通信工学)及びエレクトロニクス(電子工学)における知識を習得できるよう、基本的技術及び工学への応用技術・理論を理解するための座学系科目を開設している。
- ・これらの専門知識を活用するスキル・能力を習得できるよう、実験・実習系科目を開設している。
- ・社会の課題に対して好奇心と探求心を持ち、専門分野の知識を活かして主体的、創造的、継続的に協働して解決に取り組む能力を育むための科目を開設している。

(2) 専門知識の習得

ICT 及びエレクトロニクスの基礎を習得するために、基礎電気学、プログラミングなどの科目を開設している。更に高度な専門知識習得のために、ICT 系の科目として、電磁波工学、信号伝送学、ネットワーク工学、プログラミング応用など、エレクトロニクス系の科目として、電子工学、半導体プロセスなどを開設している。

(3) 専門技能の習得

ICT 及びエレクトロニクスの専門知識を活用できるスキル・能力を習得するために、電子通信工学基礎、電子通信工学演習、電子通信工学実験などの実験・実習系科目を開設している。その他の講義科目においても PC や各種ツールを積極的に活用して講義と一体化した実験・演習を取り入れている。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得

電子通信工学実験の中で、企業や地域及び自治体が抱えている課題を解決する PBL(課題解決型学習)を取り入れるとともに、リベラルアーツ実践や卒業研究などの科目を通して、好奇心と探求心を持って、専門分野の知識を活かして主体的、創造的、継続的に協働して問題解決に取り組む能力を育めるようにしている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/honka-exam.html#adm-policy>）

(概要)

【求める学生像】

- ・科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
- ・科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
- ・コミュニケーションの基礎が備わっている人
- ・社会への貢献意識を持っている人

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

・推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

・学力選抜

<p>数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。</p> <p>・帰国生徒特別選抜 出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。</p>

学部等名：制御情報システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表
<https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-control/threepolicies.html>）

（概要）

制御情報システム工学科は、電気・電子工学、情報工学、計算機工学及び計測・制御工学の基礎技術を身に付け、これを基盤として制御と情報の関連技術を融合し、ソフトウェアとハードウェアを統合した制御情報システムを実現できる技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表
<https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-control/threepolicies.html>）

（概要）

制御情報システム工学科では、育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、以下の能力を身につけ、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

(D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力
(D2) ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術
(D3) 電気・電子工学、情報工学、計算機工学及び計測・制御工学の各分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力
(D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性
(D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観
(D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表
<https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-control/threepolicies.html>）

（概要）

1-1. 学科共通のカリキュラム・ポリシー

基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は入学時から少しずつ学習内容が充実する襖形に配置している。

主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

[共通科目]

- ・専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
- ・知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
- ・グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。

- ・問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。

[キャリア教育]

- ・社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開講している。
- ・入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

1-2. 制御情報システム工学科のカリキュラム・ポリシー

(1) 制御情報システム工学科のカリキュラムの特徴

制御情報システム工学科では、まず専門技術修得の基礎となる基盤系科目(電気回路学、電気磁気学、計算機工学など)を学び、次にハードウェア系科目(組込みシステム設計、ハードウェア設計論など)、ソフトウェア系科目(画像処理、ソフトウェア設計論、AI概論など)、制御系科目(制御工学、シーケンス制御など)を学ぶようにしている。さらに「制御」と「情報」関連技術を融合したシステムに関する科目(IoT/組込みシステム論など)へと学びを進める。

(2) 専門知識の習得

専門知識・理論を身に着けるために、(a) 電子回路学・計算機工学・応用数学・応用物理(基盤系科目)、(b) オペレーティングシステム、信号処理、人間工学(ソフトウェア系科目)、(c) メカトロニクス工学(ハードウェア系科目)、(d) 制御工学、計測工学(制御系科目)、(e) 生体システム工学(融合システム系科目)を開講している。

(3) 専門技能の習得

実験・実習科目を通して、実践的なソフトウェア技能(情報リテラシー・セキュリティ、C言語・Python・Matlabなどのプログラミング言語開発能力)、ハードウェア技能(回路作成、計測技術、3D CADによる設計、組み込み及びシーケンス制御、ハードウェア記述言語開発能力)及びそれらを融合するシステム開発技能の習得を図っている。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働能力などの習得

1年次から毎年数週間以上に亘るプロジェクト型グループ実験に取り組んでいる。1・2年次には工学基礎演習・実験などの短期グループ実験に、3・5年次には工学基礎実験にて半期に亘る長期プロジェクト実験に取り組んでいる。併せて、リベラルアーツ基礎・実践では分野横断的の技能の向上を図っている。その集大成として5年次に卒業研究に取り組んでいる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/honka-exam.html#adm-policy>)

(概要)

【求める学生像】

- ・科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
- ・科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
- ・コミュニケーションの基礎が備わっている人
- ・社会への貢献意識を持っている人

【入学選抜の基本方針】

入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

- ・推薦選抜

<p>在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力選抜 数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。 ・帰国生徒特別選抜 出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。
--

<p>学部等名：人間情報システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-human/threepolicies.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>人間情報システム工学科は、ソフトウェア・エレクトロニクス・ヒューマンウェアの技術を加味した情報工学を基本に、人の生活に役立つ情報システムづくりの基礎を身に付け、社会のニーズに応えられる感性豊かな技術者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-human/threepolicies.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>人間情報システム工学科では、育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、以下の能力を身につけ、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p>(D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力 (D2) ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術 (D3) ソフトウェア・エレクトロニクス・ヒューマンウェアの基礎となる数学・自然科学の基礎知識と技能及び人間情報システム工学における多様な専門分野の技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力 (D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性 (D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観 (D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-human/threepolicies.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>1-1. 学科共通のカリキュラム・ポリシー 基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は入学時から少しずつ学習内容が充実する襖形に配置している。 主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。</p> <p>[共通科目] ・専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。</p>

- ・知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
- ・グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
- ・問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。

[キャリア教育]

- ・社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開講している。
- ・入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

1-2. 人間情報システム工学科のカリキュラム・ポリシー

(1) 人間情報システム工学科のカリキュラムの特徴

人間情報システム工学科は、プログラミングをはじめとしたコンピュータのシステム情報技術、自然や社会における多種多量な情報を扱う数理情報技術、電気及び情報通信の有効活用に関して基盤となる電気電子系分野に加え、人の生活に役立つ情報システムづくりの基盤となるヒューマン情報技術を複合的に学び、人間を取りまく環境をもっと豊かにする感性豊かな創造的情報システム技術者を育成できるカリキュラムとなっている。

(2) 専門知識の習得

情報工学系科目としてプログラミング、情報ネットワーク、組込みシステム、数値計算、計算機工学、システム工学、情報セキュリティ、データベース、人間環境工学系科目として人間環境工学、福祉工学、ヒューマン情報処理、画像・音処理、専門基盤科目として情報数学、情報理論、計算機工学、電気回路などの科目を開講している。

(3) 専門技能の習得

ものづくりや基礎的な実験技術の修得を目的として情報工学実験や情報工学基礎演習を開講している。ソフトウェア実験、ハードウェア実験及びヒューマン実験を通じて座学で学習した知識を実験や演習で実践し、情報システム技術者として必要な経験を積むことができるカリキュラム構成としている。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得

主に人間環境工学系科目で社会問題解決のために応用、展開できるようなカリキュラムを構成している。人間環境工学では環境保全対策についての知見を習得し、福祉工学では工学技術を福祉及び教育に応用した技術を習得し、ヒューマン情報処理では利用者にやさしい技術開発や製品開発向上のための評価法について習得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/honka-exam.html#adm-policy>）

（概要）

【求める学生像】

- ・科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
- ・科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
- ・コミュニケーションの基礎が備わっている人
- ・社会への貢献意識を持っている人

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

・推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

・学力選抜

数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

・帰国生徒特別選抜

出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

学部等名：機械知能システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表

<http://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-machine/threepolicies.html>)

（概要）

機械知能システム工学科は、「機械工学」を基本として、「電気・電子・制御・情報・通信システム」等の幅広い技術分野にも対応しながら、様々な生産活動の場において総合エンジニアとして「モノづくり」に貢献できる技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<http://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-machine/threepolicies.html>)

（概要）

機械知能システム工学科では、育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、以下のような能力を身につけ、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

(D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力

(D2) ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術

(D3) 機械及び電気電子分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力

(D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性

(D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観

(D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<http://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-machine/threepolicies.html>)

(概要)

1-1. 学科共通のカリキュラム・ポリシー

基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開講している。専門科目は入学時から少しずつ学習内容が充実する複形に配置している。

主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

[共通科目]

- ・専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
- ・知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
- ・グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
- ・問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。

[キャリア教育]

- ・社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開講している。
- ・入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

1-2. 機械知能システム工学科のカリキュラム・ポリシー

(1) 機械知能システム工学科のカリキュラムの特徴

私たちが日常使っている家電製品から、自動車・航空機、さらには人工衛星まで、現代の機械類の多くは、多数の機械部品とそれを正確にコントロールする電子制御部品の組み合わせで出来ている。機械知能システム工学科は、「機械工学」を基本として、「電気・電子・制御・情報・通信システム」等の幅広い技術分野にも対応しながら、様々な生産活動の場において総合エンジニアとして「モノづくり」に貢献できる技術者の育成を目的とする。

(2) 専門知識の修得

授業では、設計製造のための基盤である機械設計製図、材料力学や工作・加工法から、機械システム等の基本となる熱や流体の力学や機械力学、エネルギー工学、計算力学、さらには、情報処理系科目や電気電子回路、計測工学、電気磁気学、メカトロニクスなど、現代の複合的な学科技術に沿って多様な専門科目を学ぶ。

(3) 専門技能の拾得

ものづくり実習で機械加工や工作方法を、製図基礎や機械設計製図で、3DCAD を用いた3次元モデリングによる実際の製品設計での方法論の理解と習得を目指す。また、4年の課題研究、5年の卒業研究では、実験や開発を行う過程で、様々な実験装置の扱いや、測定、分析の手法について学ぶ。

(4) 問題発見・解決法、課題設定・達成力、協働力などの習得

1、2年生のものづくり実習Ⅰ、Ⅱではグループでの作業を通して協働力を、リベラルアーツ実践、3年の機械知能システム工学実験では、課題設定・達成力、問題発見・解決力の基礎を養い、4年の課題研究、5年の卒業研究で段階的にこれらの能力をさらに高いレベルまで育てるカリキュラムとなっている。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/honka-exam.html#adm-policy ）</p>
<p>（概要）</p> <p>【求める学生像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人 ・科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人 ・コミュニケーションの基礎が備わっている人 ・社会への貢献意識を持っている人 <p>【入学者選抜の基本方針】 入学者の選抜は、推薦選抜・学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜 在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。 ・学力選抜 数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。 ・帰国生徒特別選抜 出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

<p>学部等名：建築社会デザイン工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-design/threepolicies.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>建築社会デザイン工学科は、建築学の専門基礎技術に、土木工学、情報通信技術、計測技術を加え、自然環境、防災、文化、歴史に配慮し持続可能な社会の実現をめざす、建設構造物の設計・施工、地域づくりやまちづくりに貢献できる技術者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-design/threepolicies.html ）</p>

(概要)

建築社会デザイン工学科では、育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、以下の能力を身につけ、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

- (D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力
- (D2) ICTに関する基本的技術および工学への応用技術
- (D3) 建築及び土木分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力
- (D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性
- (D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観
- (D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表
<https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-design/threepolicies.html>）

(概要)

1-1. 学科共通のカリキュラム・ポリシー

基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開講している。専門科目は入学時から少しずつ学習内容が充実する複形に配置している。

主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

[共通科目]

- ・専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
- ・知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
- ・グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
- ・問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。

[キャリア教育]

- ・社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開講している。
- ・入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

1-2. 建築社会デザイン工学科のカリキュラム・ポリシー

(1) 建築社会デザイン工学科のカリキュラムの特徴

- ・建築学を中心に、土木工学、専門に関わる ICT 技術、英語、数学、物理の科目を開講している。
- ・自然環境、防災、文化と歴史、暮らしに配慮でき、持続可能な社会の実現に貢献できる視野を育てる科目を開講している。
- ・専門知識を検証し身につけると同時に、グループワークにより協調性を育成する実験・演習科目を開講している。
- ・地域でのフィールドワーク、協働、プレゼンテーションを通じ、実践的に創造するプロジェクト科目を開講している。

- ・建築士、測量士補の取得条件を満たすカリキュラムを構成している。

(2) 専門知識の習得

専門知識の習得する科目として以下を開講している。

- ・建設材料、構造力学、施工法といった1構造系の科目
- ・都市計画、建築計画、建築史といった計画系の科目
- ・都市環境工学、建築環境工学、建築設備といった環境系の科目
- ・土質力学、水理学、防災工学といった土木系の科目
- ・情報基礎、応用数学、技術英語といった専門基礎科目

(3) 専門技能の習得

- ・基礎製図、創造演習、CAD 演習により製図、模型制作の技術を習得する。
- ・測量学及び同実習、地形情報処理により計測技術を習得します。
- ・建築社会工学実験により材料、構造、環境の実験、データ収集・分析の技術を習得する。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得

- ・実験・演習科目ではグループワークにより協働力を習得する。
- ・建築設計演習ではフィールドワークによる特性や問題の発見力、他者の思いを汲む力、創造的な解決力、プレゼンテーション力を実践的に習得する。
- ・実践プロジェクト、課題研究、卒業研究では、課題設定やその解決力、それに伴う自己管理、論理的思考などを総合的に習得する。
- ・進路セミナーやインターンシップでは、キャリアデザインを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/honka-exam.html#adm-policy>)

(概要)

【求める学生像】

- ・科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
- ・科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
- ・コミュニケーションの基礎が備わっている人
- ・社会への貢献意識を持っている人

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜は、推薦選抜・学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

・推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

・学力選抜

数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

・帰国生徒特別選抜

出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

学部等名：生物化学システム工学科
教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-biological/threepolicies.html ）
（概要） 生物化学システム工学科は、生物科学と化学の専門基礎技術に情報電子技術を加え、生物の持つ様々な機能を工学的に応用するバイオ技術を駆使して、医薬医療・食品・化学等の産業分野で展開されている「先進的で高度なモノづくり」に貢献できる実践的バイオ・ケミカル技術者の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-biological/threepolicies.html ）
（概要） 生物化学システム工学科では、育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、以下の能力を身につけ、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 (D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力 (D2) ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術 (D3) 生物科学及び化学における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力、複眼的な視点から問題を解決する能力 (D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性 (D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観 (D6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-biological/threepolicies.html ）
（概要） 1-1. 学科共通のカリキュラム・ポリシー 基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は入学時から少しずつ学習内容が充実する襖形に配置している。 主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。 [共通科目] ・専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。 ・知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために人文・社会系科目及び総合科目を開講している。 ・グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。 ・問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。 [キャリア教育] ・社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開講している。

- ・入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

1-2. 生物化学システム工学科のカリキュラム・ポリシー

(1) 生物化学システム工学科のカリキュラムの特徴

生物化学システム工学科は、生物科学と化学の専門基礎技術に情報電子技術を加え、生物の持つ様々な機能を工学的に応用するバイオ技術を駆使して、医薬医療・食品・化学等の産業分野で展開されている「先進的で高度なモノづくり」に貢献できる ICT にも強い実践的バイオ・ケミカル技術者等の育成を目的としている。低学年から専門科目を配置し、専門理論と実験科目を通じて一貫した専門技術教育を行い、研究力総合力の強化を図っている。

(2) 専門知識の習得

生物科学・化学を基盤とした専門知識、理論を学習する生化学、細胞生物学、物理化学、有機化学、分析化学などを開講している。工学の基礎並びにバイオ技術を広く修得することを目的とする発酵工学、遺伝子工学、化学工学、環境科学などを開講している。専門分野へつながる ICT の基礎及び応用技術の修得を目的とするプログラミング入門、応用情報処理、生命情報処理、生命情報学、電気電子工学などを開講している。

(3) 専門技能の修得

低学年から実験実習を段階的に設定しており、生物化学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び安全教育を通して微生物培養、滅菌・無菌操作、遺伝子操作、化学合成、反応制御、化学分析、物質精製、データ解析などの幅広いバイオ技術の習得及び定着を図っている。最終的に4年次後期の課題研究、5年次の卒業研究へとつなげていく。また、学生が自信をもって技術習得できるよう、実験スキルの自己評価を行っている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/honka-exam.html#adm-policy>)

(概要)

【求める学生像】

- ・ 科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
- ・ 科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
- ・ コミュニケーションの基礎が備わっている人
- ・ 社会への貢献意識を持っている人

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

・ 推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

・ 学力選抜

数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

・ 帰国生徒特別選抜

出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

学部等名： 専攻科電子情報システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表

https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_e/threepolicies.html）

(概要)

電子情報システム工学専攻は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_e/threepolicies.html）

(概要)

電子情報システム工学専攻は、電子情報技術及び応用技術の高度化・グローバル化に対応して、電子情報系の専門知識・技術とコミュニケーション力を身に付け、複合領域にも対応できる幅広い視野と柔軟な創造力を備え、かつ健全な精神を持った広く産業の発展に貢献し国際的にも活躍できる技術者を育成するために、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

- (D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力を有し、国際的に活躍できる能力
- (D2) ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術
- (D3) 多分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する高度な知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決し、産業技術分野への活用を実践できる能力
- (D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性
- (D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観と、社会への貢献意識
- (D6) 知的探求心を持ち、問題解決へ向けて主体的、創造的に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_e/threepolicies.html）

(概要)

- (1) 電子情報システム工学専攻のカリキュラムの特徴
電子情報システム工学専攻は、電子情報技術及び応用技術の高度化・グローバル化に対応して、電子情報系の専門知識・技術とコミュニケーション力を身につけ、複合領域にも対応できる幅広い視野と柔軟な創造力を備え、かつ健全な精神を持った広く産業の発展に貢献し国際的にも活躍できる技術者の育成を目的としたカリキュラム構成となっている。
- (2) 専門知識の習得
電子・情報・制御系の基礎となる「デジタル電子回路学」や「データサイエンス」などの専門基盤群を配置し、その応用選択科目群として「集積回路工学」や「マルチメディア工学」などの電子通信系科目群と「ロボット工学特論」などの制御情報系科目群を設けている。さらに、エンジニアリングデザインの素養を身に付け創造性を育むデザイン能力育成科目として「創成技術デザイン実習Ⅰ、Ⅱ」、最新のAI、ICT技術に対応するために「知能情報処理」や「情報セキュリティ特論」などの科目を導入しており、Society 5.0に対応できる高度な実践的技術力の養成を目指している。
- (3) 専門技能の習得
ものづくりを通して、創造性・デザイン力・チームワーク力を養う。新しい商品や技術の開発には創造力と実現力が欠かせない。「創成技術デザイン実習Ⅰ、Ⅱ」では、問題発見・課題探求から解決のためのアイデア創出、制約の下での企画や行程計画など、エンジニアリングデザインについての基本を理解し、グループワークによる実践実習を行う。自ら設計を行い実際に「もの」を製作する中で、部品の選定、工作・加工、途中で生じる問題をいかに解決するかを学ぶ。これらの経験を通して、「ものづくり」に関する一連の流れ、様々な要素技術、知識を習得する。
- (4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得
解が一つでない問題に対する論理的な思考・発想及び分析の手法を理解し、問題の分析、課題の理解、発想の提案を実際の身近な問題に応用できることを目指している。制約のある具体的な問題について、調査・課題探究・アイデア発想・計画立案・試作など

解決のための一連のデザインプロセスをチームで効率的に実践できるように科目を設計している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表
<https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/senkouka-exam.html#adm-policy>）

（概要）

【求める学生像】

- ・技術の向上や新しいものの創造に対する意欲を持っている人
- ・科学技術の基礎知識および専門分野の基礎的な知識と技術を持っている人
- ・日本語および英語の基本的コミュニケーション能力が備わっている人
- ・社会への貢献意識を持っている人

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜は、「推薦による選抜」、「九州大学入学者選抜(特別選抜)」、「学力検査による選抜」及び「社会人特別選抜」の四つの方法で行う。

- ・推薦による選抜
在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。
- ・九州大学入学者選抜(特別選抜)
推薦選抜に合格した人で、九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムへの適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。なお、九州大学の判定で不合格になった場合は、本専攻科に入学となる。
- ・学力検査による選抜
本専攻科での勉学に必要な素養と基礎学力及び専門基礎知識を備えた人を選抜する。
- ・社会人特別選抜
企業等での1年以上の実務経験があつて、専門分野における基礎的な学力と知識を持ち、本専攻科での学習の意欲があり人物的にも優れていると所属の長が推薦する人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

選抜方法	検査内容及び判定方法
推薦選抜	在籍する学校の長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。
九州大学入学者選抜(特別選抜)	九州大学入学者選抜(特別選抜)は、推薦選抜の合格者を対象に、九州大学が口頭試問と提出書類の総合判定により行う。
学力選抜	学力検査の成績及び在籍(出身)学校の長より提出された調査書の総合判定により行う。
社会人特別選抜	所属の長から提出された推薦書、調査書及び志願理由書と面接の総合判定により行う。

<p>学部等名：専攻科生産システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_p/threepolicies.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>生産システム工学専攻は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_p/threepolicies.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>準学士課程における機械知能系・建築社会デザイン系・生物化学系の何れかの複合型専門を基礎として、モノづくりの基礎をデザインしこれを展開して、国際的な視点に立ったイノベーション創成を担うことのできる高度な開発技術者及び地域産業の発展に貢献できる技術者を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。</p> <p>(D1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力を有し、国際的に活躍できる能力 (D2) ICTに関する基本的技術及び工学への応用技術 (D3) 多分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する高度な知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決し、産業技術分野への活用を實踐できる能力 (D4) 知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性 (D5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観と、社会への貢献意識 (D6) 知的探求心を持ち、問題解決へ向けて主体的、創造的に取り組むことができる能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject/sub-advance/adv_p/threepolicies.html）</p>

(概要)

(1) 生産システム工学専攻のカリキュラムの特徴

生産システム工学専攻は、複眼的な視点から技術を理解し、実践の場において、地域・社会のニーズに応え、アイデアを実現できる能力を備えた技術者の育成を目的としたカリキュラム構成となっている。ディプロマ・ポリシーに定めた六つの能力を学修するため、総合基盤、コミュニケーション、自然科学、基礎工学、実験研究の科目群からなる共通の必修科目、機械工学と電気電子工学を融合した機械知能系、建築学と土木工学を融合した建築・土木系、生物工学と応用化学を融合した生物・化学系のそれぞれの専門分野に属する複合型専門選択科目、ICT系や共同教育の科目群からなる選択科目を配置している。

(2) 専門知識の習得

必修科目では、自然科学系科目として「応用解析」、「物理化学」など、情報技術科目として「応用情報科学」、「データマイニング概論」など、基礎工学科目として「計算応用力学」、「複合材料工学」などを開設している。また、専門領域の実践力を深めるために、機械工学・電気電子工学、建築学・土木工学、生物工学・応用化学の六つの専門分野に係る専門選択科目を開設している。さらに得意とする専門分野の知識や技術を活かしながら創成能力やエンジニアリングデザイン能力を修得するために、「創成実践技術」、「生産デザイン論」などの科目を開設している。

(3) 専門技能の習得

「生産システム工学実験」では、機械、電気電子、土木、建築、生物、応用化学の6分野から自ら専門とする複合工学に関する実験とその他の分野の実験を横断的に行うことにより、モノづくりの現場で必要となる専門分野に跨った各種計測技術と応用力を修得する。また、それぞれの専門分野における解析、設計、分析等の実務に必要な実践的技術やプログラミング、情報通信等のICT関連技術を習得する。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働能力などの習得

専門の枠を超えて、得意とする専門工学の知識や技術を活かしながら、必ずしも一つの解のみが存在するとは限らない工学的問題や、発展的な研究課題の解決に有効な手段を与える周辺分野の知識や技術を習得できるようなPBL科目を開設している。生産への工学的応用へ繋ぐことのできる複合工学における実践的技術力の養成を図っている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/entrance/exam/senkouka-exam.html#adm-policy>)

(概要)

【求める学生像】

- ・技術の向上や新しいものの創造に対する意欲を持っている人
- ・科学技術の基礎知識及び専門分野の基礎的な知識と技術を持っている人
- ・日本語及び英語の基本的コミュニケーション能力が備わっている人
- ・社会への貢献意識を持っている人

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜は、「推薦による選抜」、「九州大学入学者選抜(特別選抜)」、「学力検査による選抜」及び「社会人特別選抜」の四つの方法で行う。

- ・推薦による選抜
在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。
- ・九州大学入学者選抜(特別選抜)
推薦選抜に合格した人で、九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムへの適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。なお、九州大学の判定で不合格になった場合は、本専攻科に入学となる。
- ・学力検査による選抜
本専攻科での勉学に必要な素養と基礎学力及び専門基礎知識を備えた人を選抜する。
- ・社会人特別選抜
企業等での1年以上の実務経験があつて、専門分野における基礎的な学力と知識を持ち、本専攻科での学習の意欲があり人物的にも優れていると所属の長が推薦する人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

選抜方法	試験内容および判定方法
推薦選抜	在籍する学校の長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。
九州大学入学者選抜(特別選抜)	九州大学入学者選抜(特別選抜)は、推薦選抜の合格者を対象に、九州大学が口頭試問と提出書類の総合判定により行う。
学力選抜	学力検査の成績及び在籍(出身)学校の長より提出された調査書の総合判定により行う。
社会人特別選抜	所属の長から提出された推薦書、調査書及び志願理由書と面接の総合判定により行う。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/general/school/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
共通教育科	—	15人	15人	2人	2人	0人	34人
情報通信エレクトロニクス工学科	—	6人	5人	1人	0人	1人	13人
制御情報システム工学科	—	7人	4人	1人	0人	1人	13人
人間情報システム工学科	—	8人	4人	0人	0人	1人	13人
機械知能システム工学科	—	7人	2人	1人	1人	0人	11人
建築社会デザイン工学科	—	4人	4人	0人	3人	0人	11人
生物化学システム工学科	—	3人	6人	2人	0人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		33人					33人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 本校の公式 HP 上に公表(学校案内→学科・専攻科→教員紹介) https://kumamoto-nct.ac.jp/general/subject.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
情報通信エレクトロニクス工学科	40人	43人	107.5%	200人	218人	109.0%	若干名	3人
制御情報システム工学科	40人	43人	107.5%	200人	213人	106.5%	若干名	2人
人間情報システム工学科	40人	44人	110.0%	200人	213人	106.5%	若干名	0人
機械知能システム工学科	40人	43人	107.5%	200人	217人	108.5%	若干名	0人
建築社会デザイン工学科	40人	42人	105.0%	200人	217人	108.5%	若干名	1人
生物化学システム工学科	40人	43人	107.5%	200人	214人	107.0%	若干名	0人
合計	240人	258人	107.5%	1200人	1292人	107.7%	若干名	6人
専攻科電子情報システム工学専攻	24人	29人	120.8%	48人	59人	122.9%	0人	0人
専攻科生産システ	24人		129.2%	48人		137.5%	0人	0人

ム工学専攻		31人			66人			
合計	48人	60人	125.0%	96人	125人	130.2%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)		その他
情報通信エレクトロニクス工学科	45人 (100%)	14人 (31.1%)	31人 (68.9%)		0人 (0.0%)
制御情報システム工学科	38人 (100%)	15人 (39.5%)	22人 (57.9%)		1人 (2.6%)
人間情報システム工学科	38人 (100%)	14人 (36.8%)	23人 (60.5%)		1人 (2.6%)
機械知能システム工学科	44人 (100%)	21人 (47.7%)	19人 (43.2%)		4人 (9.1%)
建築社会デザイン工学科	41人 (100%)	10人 (24.4%)	28人 (68.3%)		3人 (7.3%)
生物化学システム工学科	35人 (100%)	15人 (42.9%)	20人 (57.1%)		0人 (0%)
専攻科電子情報システム工学専攻	30人 (100%)	9人 (30.0%)	20人 (66.7%)		1人 (3.3%)
専攻科生産システム工学専攻	26人 (100%)	3人 (11.5%)	22人 (84.6%)		1人 (3.8%)
合計	297人 (100%)	101人 (34.0%)	185人 (62.3%)		11人 (3.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)					
(備考)					

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>高専機</p> <p>構統一の Web シラバスを利用しており、シラバスには、授業科目、授業方法（講義、演習、実験、実習の別）、授業概要、年間スケジュールについて記載している。</p> <p>シラバスの作成については、教務委員会を通じて、前年度の 12 月の時期に、各科目担当教員に依頼している。なお、非常勤教員については、担当のホストプロフェッサー（サポート教員）を介して依頼している。</p> <p>各担当教員のシラバスが作成された段階で、シラバスの内容等の相互チェック、教務委員による点検を実施している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>本科の学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準は、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」に規定している。</p> <p>また、専攻科においては、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修等に関する規則」及び「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修等に関する規則」に規定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	情報通信エレクトロニクス工学科	167 単位	有・無	単位
	制御情報システム工学科	167 単位	有・無	単位
	人間情報システム工学科	167 単位	有・無	単位
	機械知能システム工学科	167 単位	有・無	単位
	建築社会デザイン工学科	167 単位	有・無	単位
	生物化学システム工学科	167 単位	有・無	単位
	専攻科電子情報システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	専攻科生産システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本校のHP上に公表

<https://kumamoto-nct.ac.jp/general/school/facilities.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	情報通信エレクトロニクス工学科	234,600円	84,600円	70,600円～ 177,200円	制服代 約 50,000円 スポーツ振興センター共済掛金 1,550円 教科書代 15,000円～46,000円 学生教育研究災害障害保険料 (5年分) 4050円 [以下, 寮生のみ] 寄宿料 8,400円～9,600円 寮費 (北棟) 42,000円 (電気料別) (南棟) 60,000円 (電気料別) 寮生会費 5,500円
	制御情報システム工学科	234,600円	84,600円	70,600円～ 177,200円	
	人間情報システム工学科	234,600円	84,600円	70,600円～ 177,200円	
	機械知能システム工学科	234,600円	84,600円	75,600円～ 160,000円	制服代 約 50,000円 スポーツ振興センター共済掛金 1,550円、 学研災保険料 (5年分) 4,050円 教科書代 20,000～30,000円 [以下, 寮生のみ] 寄宿料 8,400～9,600円、 寮費 64,800円 (寮生会費,電気等使用料込)
	建築社会デザイン工学科	234,600円	84,600円	75,600円～ 160,000円	
	生物化学システム工学科	234,600円	84,600円	75,600円～ 160,000円	
	専攻科電子情報システム工学専攻	234,600円	84,600円	17,300円～ 118,900円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550円 教科書代 14,000円～40,000円 学生教育研究災害障害保険料 (2年分) 1750円 [以下, 寮生のみ] 寄宿料 8,400円～9,600円 寮費 (北棟) 42,000円 (電気料別) (南棟) 60,000円 (電気料別) 寮生会費 5,500円
	専攻科生産システム工学専攻	234,600円	84,600円	10,300円～ 92,700円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550円、 教科書代 7,000円～15,000円 学研災保険料 (2年分) 1,750円 [以下, 寮生のみ] 寄宿料 8,400～9,600円、 寮費 64,800円 (寮生会費,電気等使用料込)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の修学に係る支援については、以下のとおり取り扱っている。 奨学制度：日本学生支援機構による奨学金、奨学のための給付金 授業料免除：高等学校就学支援金（本科1～3年対象）、授業料免除（本科4・5年生、専攻科生）
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア教育支援室を設置し、組織的、体系的なキャリア教育及び進路選択支援を行っている。キャリア教育については、HRなどを利用したキャリア教育、卒業生等による講演会、学外研修、企業等の協力によるキャリアセミナー等を実施している。 また、進学・就職に係る進路選択に際しては、担任を中心とした所属学科による支援のほか、カウンセラー等の外部人材を活用した支援体制を構築している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援室を設置し、教職員及び外部カウンセラー等を室員として学生の心身の健康等に関する問題について対応する体制を構築している。また、スクール・ソーシャル・ワーカーを雇用し、必要な場合に相談、支援を受けることができる体制をとっている。 学生の心身の健康等に関する重要な問題が生じた場合には、学生支援連絡協議会（学生主事、教務主事、寮務主事、学生支援室長等）において検討、対応を図ることとしている。 また、学生委員会を中心に心身の健康等に関する学生向け研修会を実施している。教職員向けの研修会等についても、学生委員会、学生支援室などの主催で実施し、学生支援に関する情報、知見の共有を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本校のHP上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/openinfo/disclosure.html
